

Title	南北戦争・再建期（一八六〇―七二年）における労働運動（一）
Sub Title	The labour movement during the Civil War and reconstruction (1860-72)
Author	川田, 寿
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.5 (1954. 5) ,p.482(18)- 504(40)
JaLC DOI	10.14991/001.19540501-0018
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540501-0018

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

南北戦争・再建期(一八六〇—七二年)における労働運動(一)

川 田 壽

一、はしがき

(1) 研究の對象 (2) 概観

二、社會經濟等の状態

(3) 南北戦争の意義 (4) 戦時における産業の發達 (5) 企業集中 (6) 南部の工業 (7) 北部の再建

三、内戦時の労働運動

(8) 労働階級と内戦 (9) 労働組合強化の要因 (10) 労働組合の擴大強化 (11) 使用者團體の活動 (12) 内戦時労働運動の特徴(以上本號)

四、再建期の労働運動

一、はしがき

(1) 研究の對象。わが國資本主義研究にとつて明治維新前後の時期が重要な契機であるように、アメリカ資本主義研究の契機はその二つの革命即ち獨立戦争と南北戦争に集中的に表現された二つの轉換のうちにみいだされるものと考えられる。この小稿の目的はアメリカ資本主義の本質分析ではなく、現在進行中のアメリカ労働運動の本質分析の一

部としてであるにすぎない。コモンズ⁽¹⁾を頂點とする労働運動史研究家の著作には多大の敬意をもつものであるが、それらはすべてアメリカ的條件を強調して、AFL型労働組合の存続と繁榮に永遠固定の觀念を與えている點に、疑問をさしはさまざるをえないのである。この點、パールマンの労働組合の理論⁽²⁾はコモンズを支柱とするウィスコンシン學派の立場を總括整理したものであるが、その歴史性を排除してアメリカ的特質を定式化する方法の誤りの一部は、すでに一九三〇年代以降の事實關係によつて立證されたものと考えられる。それにも拘らず、この理論は主流を形成し續けており、その影響はアメリカ労働運動を通じて國際的にのびてさえている状態である。それだけにこれを批判してアメリカ労働運動の歴史的本質を追求することは容易ではない。當初本稿では獨立戦争、再建、反動恐慌、繁榮、恐慌、繁榮の時期を大づかみに分析して、産業革命・獨占資本形成と並んでアメリカ型労働組合AFL支配の確立にいたる労働運動を對象とし、所謂アメリカ的特質の批判的分析を志したのである。ところが一八六〇—一九〇〇年を一括するときには、繁榮と停滞の夫々の時期における特殊的な諸要因が一般のうちに解消して發展の契機が不鮮明となり、これに對應する労働運動の各局面の検討が不可能になることが見いだされた。そこでむしろ細分される各時期の検討をつみかさねて所期の目的に達する方法をとることとし、まず内戦と戦後再建から出發する。いうまでもなくこの時期は重要ではあるがあくまで出發點であつて、アメリカ資本主義がそしてまたアメリカ労働運動が成立する四〇年間の飛躍的な發展過程の一斷面にすぎないものである。

(2) 概観。ただし一九世紀後半のアメリカ經濟の發展は、ヨーロッパ諸國をはるかに凌いだものであつた。それは兩者間の諸條件の相違に起因する。とりわけ、アメリカにおける生産は國內市場を主とし、ヨーロッパ工業國のように輸出市場を求めらなかつた。アメリカの國內市場は高い生活水準に支えられた豊かな購買力をもつ人口のゆえ

に、世界最大の消費單位であつたし、その消費量は絶えず擴張し續けた。つぎに、ヨーロッパの工業發展はその原料を國外より輸入する必要に迫られたのであるが、アメリカにおいては労働力の導入のみが問題であつた。⁽³⁾これらの條件がアメリカ工業を著るしく特色づけ、後年のソ連を除いて他國の追隨しえない大幅な改良技術の採用を可能にした。この條件のために、内戦恐慌にも拘らず、否却つてそれを契機として經濟發展が促進されたのである。また同じ期間にヨーロッパ諸國が當面した海上權制覇植民地爭奪の闘争に國力を消耗する必要もなかつた。ヨーロッパ諸國が植民地を收奪し後進國を開發する間にアメリカは一國における資本主義しかも高度な資本制的生産が巨大な歩みで前進していつたのである。⁽⁴⁾

註 (1) Commons, John Rogers. (1862—1945) は經濟學の廣汎な分野の研究のほか、立法行政をも研究したプラグマティズムに基礎づけられた制度學派に屬する。彼の著作のうち労働關係のものは *Documentary History of American Industrial Society* 及 *History of the Labor in the United States* は不朽の大作である。彼の全著作については *The Economics of Collective Action*, 1951, pp. 377—408 を参照されたい。

(2) Perlman, Selig. *A History of Trade Unionism in the United States*, 1923.

The Theory of Labor Movement, 1928.

(3) マルクスは資本論第一卷二五章においてこの關係を論じている。青木版「資本論」第一卷一六二—七三頁および Clark, Victor S. *History of Manufactures in the United States* vol. II, pp. 2—3.

(4) 「資本論」第一卷一一七三頁

二、社會經濟等の状態

(3) 南北戦争の意義。南北戦争がアメリカにおける産業革命發展途上の必然的歸結であつたと斷ずることの可否は別

としても、この内戦自體が、またその結果が資本制生産の發展を促進したことは否定できない。内戦を通して北部産業資本の發展の妨げとなつていた南部プランテーション制度を基盤とする政權は決定的な打撃をうけた。北部を中心とする政治勢力は内戦によつて統一された連邦國家權力を強化し、資本主義の無條件勝利の契機を形成した。この點に關してマルクスの次の敘述は簡明に事態をつかんでいる。

「南部と北部とのあいだの闘争は、それ故、二つの社會制度間の奴隸制度と自由労働制度との闘争にはかならない。闘争のおこつたのは北米大陸において、これ以上二つの制度が兩立し得なくなつたからである。この闘争は、兩者のうちいづれか一方の制度の勝利によつてのみはじめておわらせることができる。⁽¹⁾」

南北戦争は工場主たちのみによつて闘われたのではない。その戦列には自由労働者、西部農民さらに黒人奴隸さえも参加した。奴隸制度のもとでは、低劣な労働條件の故に生産手段は輕視され、耕地の荒廢をみちびき、絶えず未耕地を要求することになる。⁽²⁾ その結果、プランターズは、工場制度發展の條件である社會關係の近代化に反對して、自己の土地に對する要求を満足させ得るような政權確保に狂奔した。これに對して生産手段の改善を要求する産業資本、奴隸制度によつて労働條件の低劣化を迫られる自由労働者、自營農地の侵略をおそれる農民が共同の戦線を形成したのである。

しかし、内戦の結果は南部プランターズに對する北部産業資本の無條件的勝利となつた。そしてこの産業資本の指導權の確立がアメリカの運命を方向づけていつた。北部資本とならんで西部農民も内戦を通じて農耕様式の改善を促進し直接的利益をうけた。労働者階級は奴隸制度を基盤とする經濟體制の解體によつて間接的には保護されたのであるが、何等の實益も取得しえなかつた。南部における奴隸搾取が別な形の搾取⁽³⁾に轉じた上に、北部においては資本力

の増大にもなつてより能率的な搾取がなされることになつた。また資本の擴大強化に對應して労働運動の進出もあつたが、それは弱體であり、全體としては資本の指導權のもとにおかれたために資本制的生産の躍進の契機をつくつた。

(4) 戦時における産業の發達。内戦以前すでに一八四〇年代より鐵道哩數は擴張されはじめ、兵器としての火器のほかに時計、裁縫ミシン、農業機械、織維機械の生産には、資本制の工場様式が採用されていた。それらの工場は東北部を中心として中部に擴がり、イギリス系、ドイツ系移民が工場労働に従つていた。それ故に内戦が北部に工場を創設させたのでないことは明らかである。むしろ内戦は戦時需要の擴大と財政支出による大量の生産物の政府購入によつて、産業資本の集中と蓄積を促進させたのである。

開戦當初には、人心不安と南部通商の遮断による商社の資金回収難や綿花輸送の中断などのために、北部産業界は一時的な商業パニック状態にさえ陥入つた。しかしこの當初の動向は、内戦激化にもなう軍事需要の増大と戦時財政支出によつて反轉し、戦時繁榮を出現した。その上、戦時における取引不安のために、従來の收穫期から次の收穫期にわたる長期信用取引の慣行が改まり、現金取引が一般化した。これらの變化は經濟安定をもたらして生産を著るしく擴大させる助けとなつた。

戦時中、北部産業は著るしく擴張し、膨大な利潤を收得した。この繁榮は一部通貨インフレーションに伴う物價騰貴のためでもあつた。この繁榮よりの利得は奢侈品製造業者から農家、石油發掘業者におよび、この巨額の利潤は投下資本額を急速に集積させていつた。

戦前の西部産業は輸送費を節約し得るような製鐵・家具・農業機械・蒸氣機關等の製造であつたが、内戦によつて

東部との交渉が遮断されがちであつたために、その他の製造工業に對する投資もはじめられた。

以上の繁榮の結果東部紡績工場の株主配當は、一八六〇年の一〇—一五%から六五年の三〇—五〇%に上昇し、この他に各社とも巨大な社内留保の準備金を集積した。企業はこの種の高利潤には必ずしも生産利潤のみでなく、物價上昇期における原料手持期間中の價格差域から生ずる商業利潤も含まれていた。

當時の物價現象はまた、商品によつて著しく異なつてはいたが、資本の利潤率を高め産業の發達を助成した。重税の對象となつた織維製品、ウイスキー等に最もはげしい上昇がみられた。一般には金—卸物價—小賣物價—賃金の序列で上昇率が低下していた。戦前に比べて戦争末期における物價は綿製品三—四倍。ウイスキー類七倍に對し最も上昇率の高い機械工・造船労働者の賃金は二倍以下といわれる。換言すれば製品價格が生産費よりも著るしく上廻つた。

北部においては南部とちがつて、労働力の不足は致命的な問題ではなかつた。ことに終戦期においては政府の移民奨励政策がヨーロッパ諸國よりの労働力流入を増加した。その他緒戦に際しては必要工場労働者を動員し、ピッツバーグ製鐵労働者不足に對してはイギリスより同種労働者を迎えてこれを緩和したりした。同時に幾多の産業では労働力不足が要因となつて生産様式の革新を促進する働きをなした。

(5) 企業集中。製造會社の規模の擴大と多數會社群統一支配および企業結合については戦前すでに論じられていた。⁽⁶⁾一八四〇年代には裁縫ミシン製造業をロウエルの單一企業に集中せんとする試みがあり、その他二、三の産業もニューヨークに集結するよう企圖された。しかし當時の標準化と量産化の水準をもつては未だ集中の實現を可能ならせるにいたつていなかった。ここに、戦時繁榮がもたらされ、企業は政府の戦時の税制、通貨制度および軍需

發註様式等の戰時特有の事態に當面した。企業はこれに刺戟されて最大の利得を得ようとし、また不利な立法から企業利益を守ろうとして、任意團體を組織したり業種別協定を結ぶようになった。

まず植民地時代から存在した價格協定は一般化し、一八六二年には金屬部品加工業者が價格引上げの決議を行つた。またその間の事情を物語るものとしては、製紙業協會の價格協定に對して政府が印刷用紙輸入税引下げを行つた事例もある。政府の賣上高税もまた製品加工各工程に分かれた多數個別企業が工程毎に重複する課税を廻避するために、統合する役割を演じた。全國羊毛協會、ニューイングランド綿業協會、アメリカ鐵鋼協會等が關稅立法に影響を與えることを意圖して成立した。これらは後年益々強力となつた工業家團體の先驅であつた。このように戰時の財政支出は凡ゆる分野で生産の増強集中と富の集積をもたらした。すなわち、内戦は一八五七年恐慌よりの回復とそのごの異常な發展の基盤を形成するため資本制生産の勝利をもたらす戰であつた。しかもこの勝利の途は一八七三年恐慌による轉換まで續いたのである。

(6)南部の工業。戰時中の南部工業は、軍需供給のほかに近代的必需品を補給しようとした。しかし家内工業と前資本制的生産に止まつていた住民の慣行は、機械設備も少なく熟練労働者も少なかったために近代的大規模工場の發達を不可能にした。その上海岸封鎖のためにやつと軍需品輸入のみが可能であつた。

このような状態ではあつても、おくれた製鐵、紡績、製粉、製材等の小工場はあつた。南部連合政府は直營の軍需工場を設立して兵器その他を補給する外、群小企業の生産増加を奨励した。その結果南部の企業は北部と同様巨大利潤を収めることができた。このような幼稚な工場制度に對してさえも、プランターズは農園國南部にとっては危険な革新をみちびく産業革命として反目した。反撃の中心は機械工と一般職工の増大にむけられた。

この種の工場の多くは北軍の進出にともない、その軍事目的のもとに破壊焼却された。その結果殘存した工場があつても、それらの能力は戰前一八五七年の恐慌時に比較して却つて減退していたほどであつた。このようにして終戦時の南部は全く荒廢した状態におかれた。最悪の事態は南部經濟の基礎條件としての社會組織が敗戦によつて根本からくつがえされたことにある。鐵道も連邦軍の管理下におかれたものを除いてすべて荒廢した。南部の公債と通貨は全く價値を失い、戰前の富豪は貧者になつた。とりわけ奴隸の解放は最も重要な變化であつた。

奴隸制廢止は南部の通貨證券の價値低落とはちがつて、南部の社會的富の低落とはならなかつたが、一時的な労働の生産性を減じ産業活動を妨げ再建をおくらせた。また經濟外的な舊南北間の對立感情は戰後長期にわたつて殘存しそれが連邦政府の政策や立法に表明されることとなつた。

南部は敗戦によつて多くを失つたが、公共の負債が解消した點では有利であつた。この債務は一般市民が負擔させられた、しかし、南部の立地條件は綿を中心とする豊富な資源と結びついていた。その上奴隸の廢止による黑人の自由労働の能率についての海外における誇大な評價は、南部の經濟再建と繁榮についての、戰後の經濟反動をおそれていた、北部の期待を大きなものとした。この期待は南部諸州の鐵道や公共施設のために財政支出をふりむけるようにした。この南部再建のための投資は必ずしも最も生産的なものではなかつたが、軍需の終止以後の北部生産の市場となつて、戰後經濟の反動を緩和させるに役立つた。

南部再建の重要な他の面は、敗戦の經驗によつて工業國の富と權力とは全面的農業國のそれよりも遙かに優れている點を南部の人に認識させたことであつた。この理解が荒廢した工業再建の熱意を倍加させた。さらに舊制度の破壊は、新分野に進出を志す自由な立場に立つものでみたした。この期待は北部人口の南部移動をもたらし、また北部

軍人等の相當數が南部に止まつた。この精神的な刺戟におされた南部の戦後回復氣運は實質的には短期なものであつた。そして直ちに長期の反動恐慌におそわれたのである。

再建期の困難な状態はプランターズの不動産擔保借入れを不可能にし、その結果彼等は資源を利用する道を選ばねばならなくなつた。従來の綿單作のかわりに小麥やベーコンの生産を増し、單作時代の負債を減ずるにいたつた。また黒人奴隷勞働力の買入れが不可能になつたため、プランテーション農業は機械使用に、または分益小作制度に轉換していつた。この種の轉換を通じて綿産額も、戦前には達しなかつたが、漸次増大した。紡績は北部に對して戦前一八五七年には約一割の生産額であつたが、一八七〇年には二割五分に達するまでに發展した。南部工業に關する興味ある事實は、ヴァージニア、ノースカロライナにわたるピードモン地方では、奴隷制綿裁植時代以前には塔鋼、延壓、鑄鐵、製釘、小銃、毛紡織等の工業が當時としては發達したが、奴隷制廢止後に再び同業種工場が會つての企業家の孫たちによつて發足された點である。⁽⁹⁾

(7) 北部の再建。戦時中に確立された連邦政府の産業保護政策は容易には革められなかつた。綿に課税して海外需要者と綿裁植者にこれを負擔させ、この収入を國內加工業者の輸出獎勵にリベイトしようとする短期間存続した立法はそのよい例である。北部にあつては戦費債務支拂のために個人および産業に重税が課された。この種の稅負擔も國民にとつては戦債の早期償還が工業製品生産費を引下げ消費者の利益となるものと信じられていた。しかし、終戦四年後大幅な減税が行われたが、物價は低落しなかつた。むしろ重要工業原料の銑鐵、木材、鹽等の價格は却つて上昇していつた。それ故減税はその分だけ製造業者の収入を増すための立法となつた。⁽¹⁰⁾ かくして、關稅によつて保護された製造工業は、その上完成品と原料えの課稅の廢止によつて、二重の保護をうけることになつた。即ち國內産業資本の

利益は政府の防衛のもとに、内戦開始時にくらべて終戦後五年目にはずつと保障されたのである。

反面生産の増大は、戦後急速にその需要に近づき、戦時財政インフレーションの收縮による貨幣價値の短期回復豫想からする商人の國內製品買控えと輸入抑制とが加わつたために、過剰生産の現象が表われはじめた。そのために一八六六年秋には綿、毛工場には破産、閉鎖、操業時間短縮が見られ、東部工業地域の企業は不安におそわれはじめた。翌年春には毛紡織産業を通じて約二〇%の生産減となつた。

それにも拘らず、工場設備は増加し續けた。紡績錘數、ベッセマー式製鋼工場、壓延工場は新設されていつた。これらはずべて工業における勞働者の戦時中に膨脹した産業構成比率を戦後においても維持擴張したことを意味する。

この種の工業状態にあつて、農産物價は高水準を保ち、小麥價格は一八六六―六七年に最高に達し、豚肉は當時戦時戦前の二倍であつた。それ故生計費は上昇し、一般國民は高物價を非難した。産業資本は保護關稅の引上げと所得稅の廢止とを要求した。

以上の不安定な高物價、資本擴張に續いて一八七〇年には農産物價と原料品價格の低落の時代がきた。これより先一八六六年よりヨーロッパ大陸の百年戦争後の反動恐慌はすでに大陸物價を低落させた。一八六九年以降、南部を除いて一時的經濟不安が再び全般的に感じられ、金融逼迫と物價下落、企業閉鎖があらわれた。そして失業者數も各地において増加し續けた。この間、まさに數年前と同様に生産設備えの資本投下が各地で續けられていつた。この種の收縮と膨脹の明暗兩面を發展させてはいたものの、全體的には戦後八年間の再建期は激しい産業擴張の時期であつた。これを鐵道總哩數の増加にみれば、たとえそれが不健全な面をもつていたとはいえ、たしかに産業擴張の事實が示されている。

註 (1) マルクス・エンゲルズ選集補巻1「アメリカ問題」(大月版)一〇一—二頁

(2) 南部プランターズは、綿生産への需要の増大にともなつて疎放な栽植方法からする荒廢地に代る未開地を求めて耕地を中西部まで拡大し續けた。一八二〇年以來の綿栽植開始以來、サウス・カロライナ、ジョージアより次々とミシシッピ、ルイジアナ、メキシコ國境を越えてテキサスまで擴張した。Morrison, Samuel E. and Commaager Henry S., *The Growth of the American Republic*, vol. I. pp. 533~536.

(3) 奴隷廢止によつて一時南部の綿栽植は中斷するかにみえたが、耕作に必要な黒人労働を *Share-cropper* (分益小作) として高率の搾取條件の下におよした。Morris and Commaager, *ibid.* p. 25.

(4) 大統領選舉直後ヘンシルヴァニア、ウァシントン等の銀行は金貨支拂を停止したのでニュー・ヨーク向け支拂が停滞し、通貨恐慌がおこつた。この金融逼迫の結果製造業も操短することになつた。Clark, Victor S., *ibid.* pp. 8, 9.

(5) 當時の物價、賃金等に関する Hansen, Alvin H., *Factors Affecting Trend of Real Wages*. Mitchell, Wesley C., *Gold Prices and Wages under the Greenback Standard*. Clark, V. S., *ibid.* 以下同様。本文で論じたものは特に上昇のはげしかったものである。

(6) Ayer, *Some Uses and Abuses in the Management of Our Manufacturing Corporations*. pp. 1—17.

(7) Fite, *Social and Industrial Conditions during the Civil War*, p. 164

(8) この頃南部プランターズの多くは土地を離れて都市に住居をうつした。

(9) Tompkins, *History of Mekenburg Country*.

(10) Special Committee of the Revenue, *Report for 1868*. p. 23.

(11) *Statistical Abstract of the U. S., 1920* p. 695.

三、内戦時の労働運動

(8) 労働階級と内戦。一八五〇年代の組合運動は、五七年の恐慌以後一般に弱體化した。南北にわたつて散在し續けた。リンカーンの大統領當選を期して、南部分離の氣運が強くなるに従つて、組織労働者の關心は高まつた。この時期にあつて當初には労働階級の立場は混亂状態にあつた。⁽¹⁾

ニュー・ヨーク、ボストン、フィラデルフィア等の商業都市にあつては、労働者は商業的利害關係から奴隷制度を支持する有力商人の影響をうけていた。この場合には、南部との決裂は恐慌をもたらし失業を増大させる、との宣傳によつて労働者大衆をして南北の妥協による平和の維持に同調させた。シルヴィスの如き優れた指導者も一時はこの種の平和主義の主張を支持した。これに反して商業都市をも含めて南北にわたり多數の労働組合と労働者集會では、統一を破壊しようとする南部の綿花王とその支持者を非難して妥協の餘地がないことを決議している。また他の組合は、労働者は當然奴隷制度に反對することを明らかにした。

この混亂にも拘らず労働階級に共通したものは、如何にして連邦の統一を維持するかにあつた。それ故、大統領の義勇兵募集布告と同時に各職種の労働者がこれに應じた。機械工、大工、印刷工、靴工、洋服工、塗裝工、事務員等がそれであつた。これら労働者は全募集者の五割を超えていた。その内には多數の労働組合員が参加しており、時としては全支部組織が参加した場合もある。これら労働組合出身者の部隊は戦場で最も勇敢であつたといわれる。この労働者の中には社會主義者もおつた。彼等のうちには軍の上級の地位を占めたものも少くなかつた。

戦争の激化に伴つて、労働者間の奴隷解放斷行の要求が強化していった。それは南部における白人の軍需工場労働者の軍隊に入つた空席を黒人奴隷がうづめたこと、さらに黒人の奴隷制は白人の奴隷制を導入する、との主張にもと

ずくものでもあつた。

奴隸制度廢止と關連してイギリス労働者の活動は、議會においてアメリカ奴隸所有者の入國援助を非難するまでに發展した。南部に好意をもつものは、内戦が奴隸制度と關係ないこと、北部將軍が奴隸の反亂を禁壓し奴隸解放を禁じていることを論じた。この間マルクスは北部を支持し、その勝利が奴隸制度を廢絶して資本主義の發達をみちびきその結果は民主主義を國際的に強化して労働階級全體の利益となるものであると論じた。⁽³⁾ また國際労働者協會は、イギリス政府の反連邦政府の態度に抗議し、⁽⁴⁾ さらに勝利に際してリンカーンに向つて祝賀の書翰を送つた。⁽⁵⁾

内戦の停滯についての軍事的見地と奴隸解放に對する要求激化のために、遂に解放議決は批准された。この段階になると奴隸は當初より逃亡するものが多かつたのであるが、彼等は北軍に協力し、所有者に向つて反亂し、北軍に參加するようになった。黒人部隊が編成され彼等は最も勇敢に自己の自由のために闘つた。この數は二〇萬に達し、黒人部隊に反對するものに對して大統領自ら黒人が戦争の決定的役割を果していることを認めるまでになつた。⁽⁶⁾

労働者階級は戦争の進展につれて益々統一した協力をおしまなかつた。しかし、その反面史上稀にみられる富の集積が進行した。不正の軍需供給者は、破裂する銃を、砂糖のかわりに砂を、コーヒーのかわりにライ麥を、着衣や毛布はきずものや店曝品を、というような取引によつて巨額の蓄積を敢えて行つた。その間、投機とインフレーションのために労働者の生活水準は急速に低落した。一八六二年の農地解放のホームステッド法も僅かの農民を受け入れたのみで、大部分の土地は投機家の手に收められた。同年、國會議決によつて公有地の巨大な面積が鐵道會社と州に移讓され、その大半は土地投機家に占有されていつた。このような不正、腐敗、土地の收奪の上に、財政政策がアメリカ大資本の海賊的な原始蓄積の源泉であつた。⁽⁷⁾ このほか一八六四年の契約労働法は、徴兵されることのない労働者を

國外で募集して企業に供給する移民會社を公認した。この立法は移民労働者を身分的下僕の地位に拘束することを合法化したのである。同法は一八六八年撤廢まで屢々ストライキ破りとなつた多數の労働者をアメリカにもたらした。

この種の對比的な條件の下におかれて、労働者は高物價高率利潤に對して生活の防衛のために賃金引上げを要求し、屢々ストライキを行なつた。⁽⁸⁾ これに對して使用者はストライキを禁止し、ストライキ行爲者を逮捕するよう、政府に壓力を加えた。これに應じて、僅かの例外をのぞいて大多數の各方面將軍は軍需生産労働者の組織活動、ピケッテングを禁止した上、スキヤップを保護する命令を出し、さらに組織活動を行うものをブラックリストにのせるよう命じた。時として賃上げ要求のストライキに軍隊を派して労働者を逮捕し、その家族を住居より追放したりした。使用者と一方的に協力する者に對して労働者は團結を強化すると同時に、リンカーン大統領に窮狀を訴え、多くの場合劣悪な賃金を引上げるために大統領の支持をうることができた。

これらの苦い經驗は、シルヴィスをして、「労働者階級は内戦を通じて國にあらゆる忠誠をつくした。これから先、アメリカ労働者は企業の創りだしたと同様な富の分配を要求する」旨を公表させた。⁽¹⁰⁾

(9)労働組合強化の要因。一八六二年の上半期までには、國內不安と經濟不況、失業の増大等のために、五〇年代から存続した労働組合はほとんど壊滅状態におちいつた。しかしその後初戦恐慌は終つて戦争景氣が出現した。この繁榮はすべての階級階層の人に有利な条件をもたらしたが、ひとり労働者階級のみは増大する困苦に當面していつた。また資本の擴大強化に直面させられた。この生活條件と強化した資本に對抗するためには組合を中心とする労働者の團結が必要であることを、廣汎な労働者大衆が自覺しはじめた。

戦時動員のために工場労働者は不足の状況を呈し、これは組織活動の好条件となつた。一八六三年機械工組合のフ

インチャー⁽¹²⁾は、労働者にとつて史上絶好の機会がきた、として、全國の隅々まで組織することを呼びかけた。この呼びかけに先だつて労働組合再建は強力に押しすすめられはじめた。初戦期より集會を續けた組合では六二年夏以來組合員が激増していった。多くの業種では有能な組合が設立され、新規約がつけられ、賃金引上、労働条件の改善についての要求が決定され、それが拒否されればストライキが敢行された。六三年春には組織活動は高潮に達し、毎週組合の設立されないことはないほどであつた。しばしば組織成立と賃金要求提出とは同時に行われた。六三―六四年間に成立した組合の多くはストライキ直後に組織された。ほとんどすべての要求はいれられ、ストライキ行動は迅速にすすみ、多くの組合が結成された。これはスプリングフィールドでもサンフランシスコでも同じようにみられた全國的な情勢であつた。

しかしすべてのストライキが賃金引上のみではなかつた。幾多の業種では機械採用に對しても行われた。機械採用のために熟練労働者が不用になつて職場より排除される點が問題になる場合もあつた。時代の轉換のために、熟練労働者數に對して見習工の數を制限する要求はなくなつた。問題の中心はむしろ解雇と賃金水準の低落であつた。この時代にアメリカ労働者はかつてイギリス労働者がなしたように、歴史の進展を無視した機械と工場制度の進出を阻止しようとしたのであつた。この種の無益な闘争も各方面で續けられた。これは戦時下の労働節約の要求と相まつて産業革命が廣汎に浸透していつたからでもある。例えば、一八六一―六二年にニュー・ヨーク港で穀物の流動積込エレベーター設備が完成したとき、従來の一〇時間作業量は一時間で遂行されるようになった。その結果二千名の労働者がエレベーター使用に反對してストライキをおこした⁽¹³⁾。穀物労働者保護組合は穀物商人に向つて、賃金は二〇年間不變の水準で、誠實にして平和的に、ただ働らかして欲しい、と願つたが、拒否されて、ストライキは敗れた。道路清

掃人も銀冶工も同様要求で敗北せざるをえなかつた。

この苦い經驗を通じて、アメリカ労働者はこの種問題の唯一の解決策が機械との闘いでなく、労働条件改善のための團體行動であることを見いだした。このようにしてあらゆる方向から組織力への要望が一般労働者、工場労働者は勿論のこと、牧師までを大きな労働組合に結集してゆく潮流にまきこんでいつた。

この大きな流れの高潮に達した一八六四年に、フィンチャーは一年以前には労働組合の組織率が現在の十分の一にさえも達していなかつた、といつた。たしかに六三、六四、六五年、各年も組合擴大は急激なものであつた。

(10)労働組合の擴大強化。内戦時の諸要因は労働組合の増大を刺戟して、一八六三年には二〇業種七九支部であつたが六五年には六一業種三〇〇支部となつた。六四年の總組合員數は二〇萬餘と推定された⁽¹⁴⁾。その六〇%は當時の産業中心地だつたニュー・ヨーク、ペンシルヴァニア、マサチューセツツにあつた。これを組合勢力の順に業種別にみれば、機械工、銀冶工、鑄物工、大工、ペンキ工、左官、印刷工等⁽¹⁵⁾であつた。これら組合は南部においても組織され、テキサスのフューストンの如きでは内戦中この地最初の組合となつた植字工組合が創設された。

この組織擴大の潮流は、戦時下産業労働に導入されしかも劣悪な労働条件を強いられた婦人労働者の組合活動をも盛んにした。五〇年代には一般の労働組合は婦人の組織に反對であつた。しかし婦人労働者が増し、それにつれてフィンチャーの如きは婦人労働組合の必要を訴へはじめた。これに應じて労働婦人保護組合が、そして六三年以降婦人労働組合が組織されはじめた。

一般的労働組合運動の強化とならんで、全國組合を結集する氣運も高まつた。大陸横斷鐵道の完成と相俟つて國內市場は形成され、使用者間のこの市場争奪競争は労働費の切下げをもたらしした。しばしば熟練工が解雇されて少年婦

(17) 人が驚くべき低賃金で補充された。その上機械採用の増加もあつてこの新情況に對して地方に分散する組合を全国的に結集することを絶對的に必要ならしめた。一八六一—六五年間に十數の全國組合が結成された。(18) それらは組織範圍、組織形態や政策では多様であつて、この時期以前に成立した全國鑄物工組合のような急進的なものから、ストライキに反對した汽關士友愛會のように保守的なものであつた。

一八六〇年代の全國組合の多くは結成後間もなく崩壊していつた。しかしその後再編され、國內市場の確立、資本制生産の擴大と關連して出現した全國組合は當然形成され、發展していく運命をもつていた。ことにこの時代にはアメリカ労働運動史上最大の指導者鑄物工出身のシルヴィスをうみだし、八時間労働制運動指導者機械工スチュウアー(19) 労働評論編集の宣傳家フィンチャー、組織者造船大工トレヴェリック(20) 等多數の労働者出身の優れた労働運動指導者が續出した。

全國組合結成にさきだち地方組合會議が結成され、ロッチスターにはじまり、ボストン、ニュー・ヨークに續いて全國各都市につくられた。地方會議は高物價對策として協同組合賣店を支援し、また立法に對する働きかけを行なつた。例えばニュー・ヨーク州の諸地方組合會議はピケット反對法案に對して州議會の通過を阻止する決議をなした。フィラデルフィヤ地方會議も活潑な活動をなした。その一つはボイコット、同情ストライキ等を通じて各業種労働組合間の協力を決定し、労働評論紙を支持し、労働圖書館を設立した。この會議の役員には有能な指導者多數が參加した。例えばサムエル(21) ライト(22) シルヴィス、フィンチャー等である。この地方會議は全國で約四〇存在したが、相互の間には友誼的關係を維持したにすぎなかつた。この組織は地方聯合會として重要性をもつたのみであつたが、六四年以後にいたつては全國的連合に向つて集結しはじめた。この動きについては次の節で取扱ふことにする。但しこ

のような連合への動きを刺戟した使用者團體の活動は無視することはゆるされないのであろう。

(1) 使用者團體の活動。一八六三年夏頃までに、組織労働者に對する使用者の逆攻撃ははじられた。従來とも使用者團體は存在したが、かつてこのときほど統一行動にでたことはなかつた。當時の使用者協會は主として労働組合を破壊するためであつた。その行動は組合對策として企業閉鎖、組合幹部のブラックリスト、組合脱退についての契約を結ばない労働者の雇用否認等であつた。内戦時の使用者團體は、二、三産業を除いて全國連合會とはならず、多數は地方的なものであつた。

使用者團體の多くは労働組合の活動に對抗してつくられた。この團體の反組合活動は多數新聞紙によつて支援された。例外的な編集者は、使用者の團體的労働活動はヨーロッパの労働者支配に強く影響するものと考えられるから、絶對にかかる事態のおこらないことを希望する旨述べた。

内戦中の使用者團體の反労働者活動は上述したものほかに、連邦、州政府の協力を受けた。政府は外國より契約労働者をストライキ破りとして移入し、北軍將軍は軍隊を用いてストライキ労働者を解散したり投獄したりした。政府當局中リシカーン唯一人が公然と組合労働者の立場を理解し、數次にわたつて當局者と將軍の労働者に對する狂暴な彈壓を阻止した。

政府の使用者支援の他の手段は、労働組合對抗策として、囚人労働を低劣賃金をもつて企業に提供することであつた。ニュー・ヨーク州では強力な鑄物工組合を崩壊させるために死刑囚を使用者に提供したが、シルヴィスの巧な争議戰術によつて計畫は破られた。しかし多數の組合はこの種の攻撃に破られていつた。

幾多の州では労働者團結を制限しストライキを禁止する法案が上提された。(23) イリノイ州では、一〇〇ドルの罰金を

規定して、就勞希望勞働者の就勞妨害行爲を禁じ、同一行爲を二人以上の共謀をもつてするときには罰金を五〇〇ドルとした。

當時の使用者大多數は、雇用關係を契約關係とのみ理解し勞働者の團結行動を契約に反する赦し得ないものと考えた。それ故使用者團體の主要方針は勞働者の契約違反行爲を阻止し、これに關する勞働者の同情行動に對抗するために團結するにあつた。同時にかかる勞働者行爲を法的に禁止することであつた。

このような勞使双方の團體行動の累積發展は、直接に勞働組合團結の擴大強化を刺戟したが、他面双方の組織力の強い産業にあつては、勞使双方の固定的雇用條件を規定するための團體交渉を、さらに一步を進めて勞働協約の締結を促進することにもなつた。その例としては、一八六五年のフィラデルフィヤにおける建築勞働者の賃上げ條件を規定する協約等がある。

(2)内戦時勞働運動の特徴。以上によつて内戦をめぐる諸條件と勞働運動擡頭の諸様相をみた。以下當時の全國組合、國際勞働組合會議⁽¹⁾について要約し、當時の運動の推進力となつた特徴的性格をみ、再建期において高揚していつた動きの出發點ともいふべきものをみたい。

全國組合のうち最も強力だつたのは鑄鐵工國際組合⁽²⁶⁾であつた。六二年より再建活動の結果六三年に全國大會が開かれ、シルヴィスが會長に選出された。彼は從來の統制力のない、中央と地方の規約が相互に矛盾していた、そして大幅に自治権をもつた地方支部の連合體を改めて、全國組合の權威を確立した。その上組合財政確立のために年間組合費の支拂額を定め、組合カードと組合チャーター⁽²⁶⁾の賣上げ金を本部に收めさせた。本部には組合員索引カードを備え、組合費の支拂狀態を絶えず明らかにする制度をつくつた。また支部から支部に移動する際には必ず前支部の組合

費を完納させることにした。

シルヴィスはストライキ基金が本部になれば組合運営が好轉しない點を察して、各組合に強制的附課金を支拂わせて特別基金を積立てた。ストライキについては本部の承認を必要とし、これを本部よりの支援の條件とした。組織の確立するまではストライキは行わないこと、一端斷行するときは決定的に闘うことを主張した。本部の承認しないストライキは組合員勢力の浪費となるとし、そのための充分な準備と最後まで組織的に闘うことが、勝利を約束する唯一の戰術であると力説した。ストライキの際には參加勞働者を充分に援助したほかに、ストライキ破りの表をつつて廣く流布した。

このようにシルヴィスは組合指導者として有能な實踐力を示した。組合會長として全國を巡歴し支部の強化、新支部の設立に努めた。その結果組合員數は六三年の二千、六四年四千、六五年二萬五千と毎年累増していつた。そればかりでなく彼の組合はクローズドショップ協約を成立させた。

彼の關心は賃金問題に限定されなかつた。勞働條件の改善、より高い社會地位、賃金制度廢絶のための協同企業、婦人勞働者のための多くの改善、貧民窟に代る快適な勞働者住宅、勞働者の國際的團結、階級的な獨立政治行動、土地制度改善、囚人勞働の撤廢、技術者協會設立、勞働統計局創設、通貨制改革等實に多岐にわたつていた點で、彼が全國的組合指導の第一人者であり、パイオニアであつたことが理解される。彼の活動は他の全國組合に多くの影響を與えて、戦時中の組織勞働者の活動を方向づけ、その後の全勞働運動の飛躍的發展を基礎づけた。

全國組合會議についての提唱は初戦時に機械工組合によつてなされたが、未だ機が熟さず成立しなかつた。シルヴィスも六四年の鑄物工組合大會でさきの提唱を支持したが實を結ばなかつた。ところが地方組合會議の提唱によつて

一八六四年春、會議が開かれた。参加者は少なかったが、そこで北アメリカ國際産業労働會議の憲章と目的とを決定した。それによれば全國會議は勞使間紛争の調整をはかるが、ストライキに當つてはこれを支持するために組合員に負擔金を課することにした。また階級政黨としての労働黨結成については否決された。翌六五年に召集された會議は成立しなかつた。これについて全國組合の有力指導者たちは、地方組合會議を基礎とする全國連合は地方會議のない未組織地方の組織が全く不可能であるとして、全國連合は全國組合によつてのみ強力に發展させうるものとみなした。六四―六五年には有力全國組合は使用者側よりの強力な攻撃に直面して忙殺され、全國組合會議に代表を派することができなかつた。この種事情のために結局は擡頭した氣運にも拘らず發展を次期にゆずつた。

- 註 (1) Syllis, Life, Speeches, Labors and Essays, pp. 42—46.
 (2) Syllis, William H. (1828—1869) 鑄物工出身の全國鑄物工組合の全國組合長に選ばれ全國労働組合連盟の創立に努め、終生組合の擴大強化のために果敢に活動した當時の最大指導者であつた。短命のために彼の指導が中斷したことは後々の労働組合の性格と發展に對して著るしう損失であつたといわれている。
 (3) Marx and Engels, The Civil War in the U. S. pp. 3—4.
 (4) Congressional Globe, vol. LXIV., p. 102.
 (5) Schueter, H., The First International, pp. 188—91.
 (6) Cromwell, John W., The Negro in American History, p. 242.
 (7) Wiley, Bell L., Southern Negroes, 1861—65, pp. 274—75.
 (8) Morris and Commager, *ibid.* pp. 71—76, 214—219.
 (9) Contract Labor Law of 1864. Creamer, David, "Recruiting Contract Laborers for American Mills",

Journal of Economic History, vol. 1. May, 1941. pp. 44—

- (6) Commons, History p. 23.
 (7) Fincher's Trades Review, Jan. 14, 1865, cf. Forner, Philip S., History of the Labor Movement in the United States. p. 386—387.
 (8) ここでは、これまで述べて来た、産業資本の集積集中による強化、財政支出の收奪、國家による一方的資本保護、戦時犠牲の全面的な労働者への轉稼等重要な要因については繰返さなす。
 (9) Fincher, Jonathan C. 機械工出身の全國機械工銀冶工組合の指導者であつた。一八六三―七一年間有名な Fincher's Trades Review を編集主宰した。
 (10) Fincher's Trades' Review, Oct. 17, 1863 cf. Forner, *ibid.*
 (11) Commons, History, vol. II. pp. 17—21.
 (12) Fincher's Trades' Review, cf. Commons, *ibid.* p. 21.
 (13) 當時の被服労働者は未明から深夜まで労働して僅か 20 cents 前後の日給を支給された。しかもその賃金から糸代、針代等が差引かれたといわれる。
 (14) Knight of St. Crispin は一八六七年に組織されたが、六〇年代の急激な機械採用からおこる未熟練労働者による熟練労働者の壓迫と労働市場の狹隘化をさける目的をもつて組織された。
 (15) Common, History vol. II. pp. 75—76.
 (16) Steward, Ira, (1831—1883) 機械工、シルヴィスと同じ全國組合の地方幹部で終生を八時間労働制の理論形成と實施運動に没頭した。
 (17) Trevellick, Richard F., (1830—1895) 船大工國際組合長、全國鑄物組合長、内戦と再建期の優れた組織家。のちに全南北戦争・再建期(一八六〇—七二年)における労働運動

國労働組合を創設しその會長となつた。労働階級獨立政治活動、協同組合、國際労働協力、婦人の權利擴張を支持した。

② Samuel, John (1817—1909) ウェールズ生れの薬用ガラス工、見習時代から組合運動に投じ、協同組合論者であつて、後年 Knight of Labor 内の協同組合部長をなし、生涯の資料を提供した。

③ Wright, James L. 一八一六年アイルランド生れ、多年洋服工組合運動を續けて指導した。一八六八年 Knight of Labor 創設者の一人である。

④ ミネソタ、ペンシルヴァニア州等では社宅よりストライキ中の労働者を追放することを認める立法、鐵道、炭坑等の私的警官を認め、封建制度に類する特殊な社會秩序を設定するような立法が成立した。ニュー・ヨーク、ニュージャージー、ペンシルヴァニア諸州では共謀罪を復活させた。

⑤ International Industrial Assembly of North America.

⑥ Iron Molders' International Union.

⑦ 全國組合参加を證明するために地方組合に交附するための一種の免許狀。

あとがき—本稿は研究獎勵資金を受けて研究中の「アメリカ労働運動と労働法制の史的發展」の一部をなすものである。

資料

林業史研究(一)

—明治四〇年の森林法改正を中心として—

金丸平八

日露戦争が我が國の持つ「力」の限界を超へたとき、勝利の榮光は、既に、その輝きを失ひ始めてゐた。果せるかな「バイカルへ」の呼號を嗤笑し、日比谷事件をも誘ふた「屈辱的講和」の締結に際しては、多大の犠牲を強ひられたのである。戦勝に沸く夢と希望は一瞬にして潰へ去つてしまつた。ここに於て、急速な「國力の恢復・増進」を基軸とする戦後の經營が、強力に一時には妖しき雰圍氣さへも混へて展開されて行つたのである。我々はこの時に示された個々の施策が、我が國の將來に及ぼした影響の重大さを忘れることは出来ない。それ故、我々は先ず、戦後の經營に當つて我が國の標榜した宏大な企圖とこれが實現の方途に關する具體的内容とを明確に把握してきてきたいと考へる。

資本蓄積の絶對的不足と、その破産的集積といふ事實が端的

に物^(註三)我が國經濟の脆弱性は、老大な軍事費を、著しく不利な外債に求めることを餘儀なくさせた。従つて、外債の重荷に喘ぎ、荊の道を進む勝者の運命は、早くも、この時に萌してゐたといひ得るであらう。賠償金の放棄が、この運命にとつて決定的な要因となつたことは、更めて述べるまでもない。この他方、戦争の擴大に伴ふ増税の反復並に低賃銀政策に依つて、ただでさへ狹隘な國內市場は、遂に、その機能を全面的に喪失してしまつた。それにも拘らず、滿洲に於ける權益は列強の制約下に置かれ、處理の自由を留保し得た唯一の地たる朝鮮も、そのままの形で、崩壊した國內市場を救ふことは不可能であつた。むしろ、我が國は、朝鮮に對して開發資本の輸出を強請されてゐたのである。

如斯、資本の背景を缺く戦果の「空虚」さを具に經驗した我が國が、この經濟的破局の裡にあつて、恢復への目標を強大な資本の蓄積に求めたのは極めて當然の歸結であつた。ここに目標は掲げられ、我が國は、過去への感傷を振り捨て、躊躇することなく、恢復への歩みを運び始めたのである。勿論、この秋、人々の眼には、目標に連なる幾筋かの徑が映じたことであらう。即ち「特殊日本型」とさへ呼ばれるに至つた、後れた生産關係を一掃し、新なる經濟構造に支へられた社會構成を以て、所期の目的達成を計ることも、確かに、その一つであつた。乍然、かかる變革を懷ふ人々にとつて、情勢は全く絶望的であつたと思はれる。このことは、當時に於ける政治權力の基